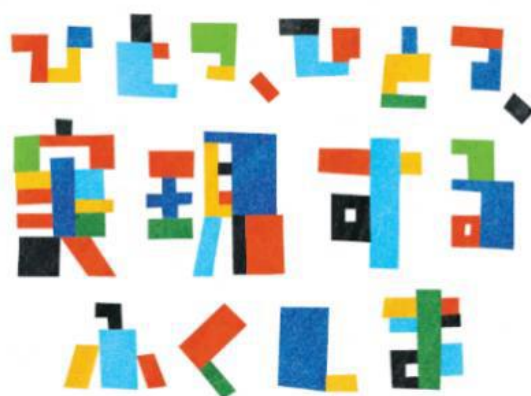


福島県生涯学習基本計画の 進行管理について

～学び合い、支え合い、地域が輝く。

次世代へつなぐ 生涯学習社会ふくしま～



令和7年9月9日

福島県生涯学習課

施策1 人生100年時代を生きる学びの推進

令和6年度の主な取組（実績）

（1）人生100年時代の学びの推進

◆ 県民カレッジ推進事業（生涯学習課）【0千円】

県民の多様な学習ニーズや学習活動の広域化に対応していくため、県・市町村・高等教育機関、民間教育機関等が連携・協力し、県民が主体的、継続的に学習活動に取り組めるよう、生涯学習に関する情報や学習機会を提供する。

○令和6年度実績

県民カレッジ連携講座

（市町村・県庁（出先機関含む）主催講座（イベント）で1市町村に限定しない講座）

・講座数 1,744 講座 ・参加者数 998,086 人

市町村講座（市町村民限定講座（イベント））

・講座数 5,080 講座 ・参加者数 1,094,400 人

県民カレッジ情報ボックス利用（ヨークベニマル・公民館等への情報発信）7団体（17件）

◆ 消費者行政体制強化事業（消費者教育事業）（消費生活課）【5,956千円】

消費者被害の防止・救済のため、また、自主的かつ合理的に社会の一員として行動する自立した消費者の育成のため、学校や地域で活動する多様な主体と連携しながら出前講座等の消費者教育事業に取り組む。

○令和7年3月末実績

- ・LINE公式アカウントによる情報発信：毎月2回以上配信
- ・高校生向け啓発パンフレット：18,000部作成
- ・高齢者向け啓発パンフレット：14,000部作成
- ・出前講座（教員向けも含む）：76回実施
- ・消費生活情報紙「くらしの情報」作成・配布：年4回発行
- ・消費者問題ネットワーク構築事業：勉強会を4回開催

◆ デジタルデバйд解消事業（デジタル変革課）【3,273千円】

高齢者の情報活用能力の習得・向上を支援し、ICTを活用した地域活性化の促進を図るため、市町村や会津大学、関係機関と協力して地域の高齢者のデジタルデバйд解消に向けた情報リテラシー向上教室を行う。

- ・スマホ教室を15町村計36回開催
- ・デジタルサポーターを4市町計26名認定

◆ 離職者等再就職訓練事業（産業人材育成課）【300,509千円】

離職者等求職者の早期就職を支援するため、公共職業安定所から受講あっせんを受けた者に対し、事務分野や介護分野など多様な職業訓練を委託して実施する。国の委託事業

○離職者等再就職訓練事業（R7.3 月末現在）

・受講者 1,091 名 ・修了者 863 名 ・就職率 77.2%

○令和 5 年度実績（R6.3 月末現在）

・受講者 1,138 名 ・修了者 909 名 ・就職率 78.0%

◆ ジョブ・カードの普及啓発（産業人材育成課）【 0 千円】

委託訓練受講者等へのジョブ・カードの作成支援及び普及啓発を行う。

○ジョブカード作成支援件数（R7.3 月末現在）

・委託訓練 925 件 ・学卒訓練 57 件

○令和 5 年度実績（R6.3 月末現在）

・委託訓練 620 件 ・学卒訓練 95 件

◆ 職場における女性活躍推進事業（雇用労政課）【 8,741 千円】

働き方改革や女性活躍に関する出前講座・セミナーにより、企業の経営者、担当者の意識を高めるとともに、働く女性向けセミナーと個別相談により、女性のキャリアアップを支援する。

○働く女性のキャリアアップ事業

・働く女性のキャリアアップ支援セミナー

10/18 郡山市（21 名参加）、11/22 いわき市（30 名参加）、12/6 会津若松市（18 名参加）

※ オンライン参加者を含む

・働く女性向け個別支援相談窓口

延べ相談者数 68 名

○企業内担当者育成 WLB 推進塾（3 回連続セミナー）

10/11,11/8,12/13 郡山市（参加者延べ 26 名）

◆ 男女共生センター管理運営委託事業（啓発及び研修事業）（男女共生課）【 1,764 千円】

男女共同参画についての県民意識の変革を図るため、様々なアプローチ方法で各種事業を実施するとともに（啓発事業）、男女があらゆる分野に参画し、ともに責任を担うために必要な資質・能力の向上を図り、個人・家庭・地域等における取組が進むよう各種講座を開催する（研修事業）。

① 未来館トークサロン 2 回開催 参加者数計 35 名

② 男女間における暴力の防止と被害者支援事業 1 回開催 参加者 25 名

③ ダイバーシティ理解促進事業 1 回開催 参加者 42 名

④ 未来館エンパワーメント塾 3 回開催 計 45 名参加

⑤ ワーク・ライフ・バランス実践講座 3 回開催 計 178 名参加

⑥ 福島の未来を担う女性リーダー育成事業（女性のための未来チャレンジ塾） 2 回開催 計 23 名参加

⑦ 教師のための次世代人材育成成人権セミナー 1 回開催 28 名参加

⑧ 研修講師派遣事業 17 回派遣 計 743 名参加

⑨ 市町村男女共同参画担当者研修（研修会・会議） 2 回開催 計 62 名参加

⑩ 復興・防災と男女共同参画に関する人材育成研修 1 回開催 10 名参加

(2) 若い世代の「生きる力」を育む学びの推進

◆ チャレンジ！子どもがふみだす体験活動応援事業（ふくしまキッズパワーアップ事業、 「ふくしまの未来」へつなぐ体験活動応援事業）（社会教育課）【114,103 千円】

東日本大震災の経験を踏まえ、子どもたちが充実した自然体験活動・震災学習等を行う機会を通して心身ともに健康で、豊かな人間性の育成を図るとともに、社会体験活動を通して、主体的に復興に寄与する、新生ふくしまを担うたくましい子どもたちの育成を図る取組を支援する。

○ふくしまキッズパワーアップ事業

- ・169 団体、9,399 名（3 月 31 日現在）

○ふくしまの未来へつなぐ体験応援事業

- ・元気を届ける交流・体験事業 1 団体
- ・今を知り思いを伝える事業 23 団体

◆ 地域学校協働本部事業（地域学校協働活動補助事業）（社会教育課）【66,385 千円】

地域の総合窓口として「地域コーディネーター」を配置し、学校の窓口として「地域連携担当教職員」を任命することで、地域と学校がパートナーとなって連携・協働していく組織的・継続的な体制を構築するための取組を支援する。

○R6 年度実施市町村数

- ・地域学校協働活動 27 市町村
- ・家庭教育支援活動 5 市町村

◆ インターンシップによるキャリア教育充実事業（高校教育課）【347 千円】

インターンシップを実施することにより、早期に職業観、勤労観を醸成するとともにキャリア教育の推進を図る。そのため、受入企業との事前打合せや巡回指導を行う教員の旅費を支援する。

○実施校数、参加人数、訪問事業所数

- ・実施校数 33 校
- ・参加人数 3,256 人
- ・受入事業所数 1,738 社

○本県における職場体験・インターンシップ実施状況等

- ・令和5年度 64.6%（国立教育政策研究所生徒指導・進路指導研究センター調査）
- ・令和4年度 54.9%（"）

◆ ふくしまの未来をひらく読書のカプロジェクト （情報発信プロジェクト）（社会教育課）【441 千円】

中学生・高校生の自主的な読書活動推進や情報発信力の向上を目指し、中学生・高校生によるビブリオバトル福島県大会を開催する。ビブリオバトルを通じて、福島の元気を発信し、復興を担う人材の育成を図っていく。

- ・日時 10 月 12 日（土）
- ・場所 福島県立図書館 講堂
- ・発表者 中学生 7 名（地区予選会参加中学生 38 名）
高校生 7 名（地区予選会参加高校生 36 名）
- ・観戦者 161 名（地区予選会観戦者 757 名）

（３）支援が必要な方の学びの推進

◆ ふくしまの誰一人取り残さない教育体制整備事業（特別支援教育課）【 35,936 千円】

「地域で共に学び、共に生きる教育」を推進するため、市町村において、教育、保健、福祉、労働等の関係機関と連携し、特別な支援を必要とする子どもたちの就学前から学校卒業後までの切れ目のない支援体制の整備と研修の充実を図る。

- 特別支援教育アドバイザー10名配置（県内特別支援学校10校）就学等に関わる相談 等
- 地域支援体制を戦略的に進める会議 事業担当者会議（年4回）
4月9日（火）、7月5日（金）、1月10日（金）、2月28日（金）開催
- 特別支援教育推進会議 委員11名 5月10日（金）、1月27日（月）開催

◆ 東京2025デフリンピック開催復興推進事業（スポーツ課）【 32,428 千円】

2025年に本県でサッカー競技が開催される「東京2025デフリンピック」に向けた県内の機運醸成に取り組むとともに、大会開催を契機にデフスポーツ（聴覚障がい者スポーツ）やろう者への理解促進・関心向上を図るなど、大会に関連した一連の取組を通じて、共生社会の実現に寄与する。

- 東京2025デフリンピック1年前カウントダウンフェスタ「デフスポふくしま」の開催
・令和6年11月17日（日）、Jヴィレッジ全天候型練習場【参加者1,024名】
・講演、トークイベント、デフ・パラスポーツ体験、手話体験等
- 東京2025デフリンピック300日前カウントダウンイベントの開催
・令和7年2月1日（土）、円谷幸吉メモリアルアリーナ【入場者 1,237名】
・エキシビジョンマッチ、デフバスケットボール教室、手話体験ブース等
- 手話に親しむ出前講座（保健福祉部実施）、相双・いわきの小学校【実施校 13校】
・子どもたちに手話に関心を持つ機会を提供するため、出前講座を実施
- 子ども観戦招待【対象：県内の小中高生】
・R7年度に実施するサッカー競技観戦への参加校募集、バス手配等【申込数32校2,275名】R7/3/31現在

◆ 障がい者スポーツ振興事業（スポーツ課）【 19,412 千円】

障がい者の社会参加を図るため、県障がい者スポーツ大会を開催するとともに、障がい者スポーツ指導員の養成を行う。また、障がい者が日常的にスポーツに親しむ文化の創出、豊かなスポーツライフの創造を図るため、障がい者スポーツ施策を総合的に推進する。

- 第62回福島県障がい者スポーツ大会の開催（5/19（日）、5/26（日）、11競技778名参加）
- 初級指導者養成講習会の開催（12/7（土）、12/8（日）、12/14（土）、16名受講）
- スポーツ教室の開催（運動導入教室：104回、種目別スポーツ教室：82回：12種目）

◆ 多文化共生推進事業（やさしい日本語普及促進事業）（国際課）【 6,833 千円】

外国人住民が安心して生活できる環境づくりに向けて、関係団体と連携し、セミナーや外国人住民と地域が協働して行う講座等を通じて、県民へのやさしい日本語の普及促進を図る。

- 市町村や企業、関係団体と連携した日本語の普及促進に取り組んだ（R7.3末現在）。
・外国人顧客等に対する窓口対応力向上研修への講師派遣（やさしい日本語セミナー）：31回
・やさしい日本語協働パートナーネットワーク会議の開催：3回 ・防災講座：3回
・オンライン日本語サロン：6回 ・生活オリエンテーション講座：6回
・日本語教室の自走化に向けての開設支援（ステップ日本語講座）：6団体
・その他関係団体と連携した広報活動7回

（４）心身の健康づくりに向けた学びの推進

◆ チャレンジふくしま県民運動推進事業（文化振興課）【 29,931 千円】

「人も地域も笑顔で元気なふくしま」を実現するため、健康、運動、食、文化等の関係団体が連携し、県民一人一人の日常的な健康づくりの実践のみならず、地域全体の盛り上がりにつながるよう、多方面から健康への気付きやきっかけづくりの提供等を行う。

- アートとウォーキングを組み合わせた取組「ふくしまアートウォーキング」を開始（９月～）
 - ・ 9/4 ふくしまアートウォーキングオープニングイベント
 - ・ 9/5～1/31 ふくしまアートスポット Instagram キャンペーン
 - ・ 9/28、10/12、10/26 アートウォーキングモデルコース体験イベント
 - ・ 10/26～1/31 アートスポットスタンプラリー
 - ・ ふくしまアートウォーキングガイドブック 2 万部作成
- 県内大学・短期大学と連携し、ヘルシーメニューを開発（1/24 福島キャノン(株)、2/1-3/31 杉妻会館レストラン、2/7(株)シグマ会津工場）
- 県民運動ポータルサイトにて、県内各地の健康づくりイベントを「県民運動イベント」として周知
 - ・ 県民運動イベント登録数（R7.3 月末時点） 772 件

◆ ふくしま健民パスポート事業（健康づくり推進課）【 19,043 千円】

県民が健康づくりに参加しやすいよう、インセンティブを付与する仕組みを取り入れたふくしま健民アプリの活用や市町村との連携事業による「ふくしま健民パスポート事業」を実施する。

- 令和 6 年度より毎月 1 日、11 日、21 日に公共交通機関等を活用して 8,000 歩を促すふくしまウォーキングデーミッションを実施。
- 令和 6 年 11 月 1 日～11 月 30 日までチーム対抗バーチャルウォーキング大会を開催。
- アプリダウンロード数（R 7. 3 月末現在） 91,465 件

◆ スポーツふくしま普及啓発・住民参加事業（スポーツ課）【 13,006 千円】

市町村と関係団体等に対し、地域スポーツの一体的な環境づくりをテーマに講演や分科会（意見交換会）等を実施する。また、子どもたちの夢や希望を育むためスポーツイベントを県内各地で開催するほか、スポーツボランティアの更なる育成による「ささえるスポーツ」文化の普及を図る。さらに、子どもから高齢者まで誰もがいつでも参加できる総合型地域スポーツクラブの充実に向けた支援を行うことで、新たな「福島県スポーツ推進基本計画」に基づく生涯スポーツ社会の実現を目指す。

- 地域スポーツ推進会議
 - ・ 第 1 回地域スポーツ推進会議（4 月 19 日（金）、参加者 58 名）
 - ・ 第 2 回地域スポーツ推進会議（7 月 23 日（火）、参加者 56 名）
- 輝け未来へ！スマイルスポーツ教室 in ふくしま
 - ・ スカイスports 教室（6 月 2 日（日）、参加者小学 4 から 6 年生と保護者 242 名）
 - ・ スケートボード教室（9 月 29 日（日）、参加者 52 名）
 - ・ BMX 教室（11 月 24 日（日）、参加者 36 名）
- スポーツボランティア・レガシー事業
 - ・ スポーツボランティア初任者研修 3 回 参加者 260 名
 - ・ 初心者実践研修 5 月～3 月 県内各地
- リーダー研修（12 月 7 日（土）、参加者 17 名）
- 総合型地域スポーツクラブ支援アドバイザー派遣事業
 - ・ クラブ訪問等 4 月～3 月

(1) 人生100年時代の学びの推進

- ◆デジタルデバイス解消事業（デジタル変革課）【5,532千円】
- ◆意識改革推進事業（雇用労政課）【16,426千円】
- ◆アカデミアシーズ創出事業（産業振興課）【41,592千円】
- ◆ジョブ・カードの普及啓発（産業人材育成課）【0千円】
- ◆離職者等再就職訓練事業（産業人材育成課）【460,481千円】
- ◆（一部新）国際交流推進事業（ふくしまグローバル人材育成事業）（国際課）【396千円】
- ◆消費者行政体制強化事業（消費者教育事業）（消費生活課）【9,611千円】
- ◆男女共生センター管理運営委託事業（啓発及び研修事業）
（共生社会・女性活躍推進課）【1,764千円】
- ◆県民カレッジ推進事業（生涯学習課）【0千円】
- ◆カーボンニュートラル推進事業（ふくしまゼロカーボン宣言事業）（環境共生課）【7,904千円】

(2) 若い世代の「生きる力」を育む学びの推進

- ◆インターンシップによるキャリア教育充実事業（高校教育課）【396千円】
- ◆チャレンジ！子どもがふみだす体験活動応援事業（ふくしまキッズパワーアップ事業、
「ふくしまの未来」へつなぐ体験活動応援事業（社会教育課）【133,602千円】
- ◆地域学校協働本部事業（地域学校協働活動補助事業）（社会教育課）【77,604千円】
- ◆ふくしまの未来をひらく読書のカプロジェクト（情報発信プロジェクト）
（社会教育課）【1,058千円】
- ◆（一部新）男女共同参画推進条例・プラン推進事業（次世代スクールプロジェクト事業）
（共生社会・女性活躍推進課）【448千円】
- ◆ふくしまで働く医療関連産業次世代人材育成事業（医療関連産業集積推進室）【39,807千円】
- ◆ふくしま旬の食材等活用推進事業（農産物流通課）【63,250千円】
- ◆（一部新）ふくしまデジタルアート推進事業（文化振興課）【9,813千円】
- ◆（新）子ども音楽体験支援事業（文化振興課）【2,759千円】

(3) 支援が必要な方の学びの推進

- ◆ふくしまの誰一人取り残さない教育体制整備事業（特別支援教育課）【37,540千円】
- ◆（一部新）多文化共生推進事業（多文化共生きずな促進事業）（国際課）【10,292千円】
- ◆障がい者芸術文化活動推進事業（障がい福祉課）【10,342千円】
- ◆点字図書館の管理運営（障がい福祉課）【47,621千円】
- ◆障がい者スポーツ振興事業（スポーツ課）【19,853千円】
- ◆（一部新）東京2025デフリンピック関連復興推進事業（スポーツ課）【84,488千円】
- ◆（新）ともに、つながる。ふくしまスポーツ交流事業（スポーツ課）【10,352千円】

(4) 心身の健康づくりに向けた学びの推進

- ◆元気なふくしまっ子食環境整備事業（健康教育課）【3,348千円】
- ◆食の安全・安心推進事業（消費生活課）【89,825千円】
- ◆スポーツふくしま普及啓発・住民参加事業（スポーツ課）【13,040千円】
- ◆チャレンジふくしま県民運動推進事業（文化振興課）【30,204千円】
- ◆ふくしま健民パスポート事業（健康づくり推進課）【4,180千円】

施策２ 地域づくりにつながる学びの推進

令和６年度の主な取組（実績）

（１）地域コミュニティの活性化

◆ ふるさと・きずな維持・再生支援事業（NPO・企業等との連携・協力事業）

（文化振興課）【 5,724 千円】

復興・被災者支援活動や地域課題に取り組んでいるNPO法人と、それらの社会貢献活動に関心のある支援者が、課題解決のため互いのニーズ・シーズを共有するマッチングの場を提供することで、協働事業の推進を図る。

- 県内のNPO法人に対して協働事業に関するアンケート調査を実施
- マッチングを希望するNPOを募集し、ヒアリング等を実施
 - ・ヒアリング件数 20件（R7.3.31現在）
- NPOと企業等の協働推進シンポジウムを開催予定（参加者数76名）
 - ・日時 2月27日（木）
 - ・会場 杉妻会館
 - ・内容 ①講演：特定非営利活動法人日本NPOセンター常務理事 田尻 佳史 氏
 - ②企業×NPOの協働事例紹介 4事例
 - ③交流会・名刺交換会

◆ ふくしまを創る若者のプラットフォーム構築事業（高校教育課）【 34,248 千円】

若年層の県内還流及び定住を促進するため、各県立高校での地域協働による地域課題探究活動の更なる推進に向け、校内体制及び地域との連携体制の構築を行う。

- 各校の地域課題探究活動を支援
 - ・県内7地域に、地域ネットワーク推進委員を配置
- 高校生の探究学習への支援
 - ・時間や場所の制限がなく、いつでも学びを深められるよう、地域に関わる仕事に携わる地域人材や若手人材に関するICT教材（動画やテキスト等のコンテンツ）を制作。
- ふくしま高校生社会貢献活動コンテストの開催
 - ・日時 9月14日（土）
 - ・会場 ラコパふくしま
 - ・エントリーした31グループ中、予選（書類審査）を通過した12グループが出場。
- 地域人材や若手人材を活用した学習を支援
 - ・全県立高等学校へ、各校の地域課題探究活動のための予算を配分。
- 持続可能な探究学習のカリキュラム構築のための研修会を実施。
 - ・対象：教頭及び探究学習担当教員

◆ ふくしまの次代を担う新規就農者支援事業（多様な担い手確保支援事業）

（農業担い手課）【 82,786 千円】

高齢化等による農業就業者の減少に対応するため、就農ポータルサイト等によるPR、県内外での就農者確保に向けた推進活動や農業法人等での実習生受入、雇用マッチングの他、経営者向け人材確保・育成支援や新規就農者の定着促進の取組を行う。

令和6年度実績

○就農ポータルサイト等によるPR PV数：197,413

○農業法人等での実習生受入 22名、うち研修終了後19名が直接雇用

◆ 地域でつながる家庭教育応援事業（社会教育課）【1,097千円】

本県の家庭教育推進上の大きな課題である「親の学び」を支援するために、PTAと連携し、家庭教育について親自身が学ぶ機会が充実するよう企業と連携した地域の家庭教育の推進や親子の学びを応援する講座を行う。また、各地域で主体的に家庭教育の支援が行えるよう学習プログラムの活用を進めるとともに、地域で子育てをする親を支援する家庭教育支援者の養成・育成をする研修会を行う。さらに、行政機関や福祉機関と連携しながら、子育てや家庭教育を応援する「家庭教育支援チーム」の設置を促進する。

○親子の学び応援講座

- ・県北教育事務所 11/14 (235名参加)
- ・県中教育事務所 12/11 (175名参加)
- ・県南教育事務所 9/11 (108名参加)
- ・会津教育事務所 7/4 (69名参加)、7/17 (75名参加)
- ・南会津教育事務所 7/12 (120名参加)、11/22 (67名参加)
- ・相双教育事務所 11/30 (43名参加)
- ・いわき教育事務所 6/24 (178名参加)、11/22 (332名参加)、12/3 (151名参加)

○福島県家庭教育支援チーム 登録数30チーム

（２）地域への誇りと愛着を育む学びの推進

◆ 「地域のたから」民俗芸能総合支援事業（文化振興課）【18,828千円】

震災により被災した民俗芸能等の継承・発展のため、担い手の意欲を高める公演の機会を提供するとともに、民俗芸能団体に専門家を派遣するなどの各団体の実情に応じた支援を行う。

【民俗芸能公演事業】

- | | |
|------------------------------------|--------|
| ①R6.8.11 楽しいオーケストラ in 福島 | 1団体出演 |
| ②R6.9.14 ふたばワールド in ひろの | 2団体出演 |
| ③R6.10.12～13 ふるさとの祭り 2024 in こおりやま | 19団体出演 |
| ④R6.11.17 デフスポふくしま | 1団体出演 |

【民俗芸能復興サポート事業】

- ①民俗芸能個別訪問 54団体を訪問
- ②小学校との連携活動 7校にて実施

◆ 地域学校協働本部事業（復興に向けた学びを通じた協働のまちづくり事業）

（社会教育課）【60,276千円】

震災後の子どもたちを取り巻く環境の変化に対応するため、地域と学校等が相互に連携・協働を進め「協働のまちづくり」を推進するとともに、復興に向けた学習や活動を通して、地域住民をつなぎ、被災者の孤立化と震災の風化を防ぐ事業を展開する。

○R6 年度 12 月末時点

○地域学校協働活動 実施市町村 13 市町村 1 NPO 法人

○家庭教育支援活動 実施市町村 1 市町村

◆ ニュースポーツによる高齢者の健康づくり支援事業（健康づくり推進課）【1,715 千円】

誰もが気軽に取り組み、楽しむことができるニュースポーツにより、高齢者に運動習慣を定着させるとともに、社会参加の機会を増やし、高齢者の健康づくり、生きがいづくり、地域コミュニティづくりを促進し、介護予防につなげる。

○ニュースポーツ大会の開催（囲碁ボール、スカットボール、ボッチャ）

○7 月から 10 月に県内 6 地区（県北・県中・県南・会津・南会津・浜通り）で地区大会を開催し、各地区の代表チームで 10 月にチャンピオン大会を開催した。

（参加者数 1,142 名）

○随時、ニュースポーツ用具を貸し出し普及啓発活動を実施。

令和 7 年度の取組

（1）地域コミュニティの活性化

◆ふくしまを創る若者のプラットフォーム構築事業（高校教育課）【42,810 千円】

◆地域でつながる家庭教育応援事業（社会教育課）【2,465 千円】

◆ふくしまの次代を担う新規就農者支援事業（多様な担い手確保支援事業）（農業担い手課）【84,117 千円】

◆女性が変わる未来の農業推進事業（女性グループ事業活動支援事業）（農業担い手課）【2,997 千円】

◆ふくしまの元気を創る地域産業 6 次化推進事業（ふくしま 6 次化人材育成事業）

（農林企画課）【8,000 千円】

◆ふるさと・きずな維持・再生支援事業（NPO・企業等との連携・協力事業）（文化振興課）【5,641 千円】

◆県民カレッジ推進事業（生涯学習課）【0 千円】〔再掲〕

（2）地域への誇りと愛着を育む学びの推進

◆学校給食における地場産物の活用応援事業（健康教育課）【0 千円】

◆地域学校協働本部事業（復興に向けた学びを通じた協働のまちづくり事業）（社会教育課）【92,615 千円】

◆ふくしまの次代を担う新規就農者支援事業（青年農業者等活動支援事業）（農業担い手課）【2,599 千円】

◆福島県水産業復興加速化総合対策事業（経営体復興促進事業）（水産課）【23,012 千円】

◆「ふくしまの農育」推進事業（農村振興課）【3,558 千円】

◆「地域のたから」民俗芸能総合支援事業（文化振興課）【20,340 千円】

◆ニュースポーツによる高齢者の健康づくり支援事業（健康づくり推進課）【1,715 千円】

施策3 東日本大震災及び原子力災害の記憶と教訓の伝承

令和6年度の主な取組（実績）

（1）東日本大震災等の経験や教訓の伝承と防災教育の推進

◆ 東日本大震災福島県復興ライブラリー整備事業（社会教育課）【2,746千円】

被災地域の図書館及び公民館図書室が行う、学校図書館支援活動や地域住民の学習環境を整えるため、地域を知り、支えるための資料を収集し、移動図書館（あづま号）による巡回貸出を行う。

- 巡回先町村 8町村（檜葉町、富岡町、川内村、浪江町、葛尾村、飯舘村、広野町、大熊町）
- 貸出冊数 4,673冊

◆ 震災・原発の経験・教訓、復興状況伝承事業（ジャーナリストスクール開催事業）（生涯学習課）【6,654千円】

福島県の子どもたちが、県内で復興・再生に邁進している団体等に対して取材を行い、震災の経験や教訓、復興に向けての取組を学び、発信することにより、ふるさとへの愛着心を育むとともに、ふくしまの復興を広く国内外に発信する。

- 日時 8月8日（木）開校式・取材 10日（土）～11日（日）新聞作成
8月17日（土）発表会・閉校式
- 場所 東日本大震災・原子力災害伝承館、相双地区 他
郡山市青少年会館、郡山市市民交流プラザ
- 受講生 県内の小学5年生～高校生 37名
- 発表会参観者 90名
- 特別講師 池上彰氏
- 発行部数 60,000部（配布先：県内外避難者、県内各小・中・高・義務教育学校、他）
- 英語版新聞 本課HPに掲載

◆ 震災と復興を未来へつむぐ高校生語り部事業（高校教育課）【7,535千円】

震災と復興に関する地域課題探究活動を通して、福島における震災、復興、そして未来について、自分の考えを持ち、自分の言葉で語ることでできる「高校生語り部」を育成する。この学びの過程で、生徒の思考力、判断力、表現力等を育成するとともに、県内外及び海外の高校生等との交流を通して、震災に関わる風化防止、風評払拭につなげる。

- 実践校を18校指定。各校とも計画に基づき福島における震災、復興について情報発信したり交流活動を行ったりした。
- 5校が海外、県外の高校生らと交流活動を実施。（白河、相馬、福島、安積、あさか開成）
- 伝承館での教員研修を、小中学校は8月9日及び11月25日に、高校は11月20日に実施。
- 1月20日に双葉町産業交流センター及び県伝承館において実践校18校の代表生徒による「語り部交流会」を実施。

◆ 次世代へつなぐ震災伝承事業（生涯学習課）【19,508千円】

語り部団体等のネットワーク化や、人材育成、県外等への語り部派遣を行うことで、語り部等の持続的な活動の仕組みづくりに取り組み、次世代への震災の記憶と教訓の伝承につなげていく。

○ネットワーク化・レベルアップ

(1) 東日本大震災・原子力災害ふくしま語り部ネットワーク会議（2回開催）

・6/3（月）双葉町産業交流センター、R7.2/8日（土）富岡町文化交流センター

(2) 3. 1 1被災地視察研修（ふくしま語り部ネットワーク会議会員対象）

・10/10（木）～10/11（金）

・訪問先：石巻市震災遺構門脇小学校、石巻南浜津波復興祈念公園、石巻市震災遺構大川小学校、南三陸町内被災地

(3) ふくしま震災伝承者交流会

・11/19（火）富岡町文化交流センター（参加者80人）

○人材育成

(1) 伝承者育成検討プロジェクトチーム会議（2回開催）

・5/17（金）富岡町文化交流センター、R7.1/16（木）双葉町産業交流センター

(2) 伝承者育成講座（4回開催）

・7/20（土）富岡町文化交流センター（受講生17人）

・9/28（土）～9/29日（日）（受講生14人）

1日目：フィールドワーク（大熊町・いわき市）、2日目：双葉町産業交流センター

・11/30（土）双葉町産業交流センター（受講生9人）

・R7.2/8（土）富岡町文化交流センター（受講生14人）

(3) 伝承者英語講座（4回開催）

・7/20（土）富岡町文化交流センター（受講生3人）

・9/25（水）オンライン（受講生3人）

・11/20（水）オンライン（受講生3人）

・R7.2/8（土）富岡町文化交流センター（受講生3人）

○県外への語り部派遣

・44件派遣（東北8、関東16、中部7、関西4、中国1、四国2、九州・沖縄6）

◆ WWLコンソーシアム構築支援事業（高校教育課）【8,717千円】

福島における原子力災害からの復興を果たし、持続可能な社会を創造していくグローバル・リーダーの資質・能力の育成に取り組む福島県立ふたば未来学園中学校・高等学校を拠点校に指定し、探究と海外研修を軸とし、また、大学と連携したグローバル人材育成のカリキュラムの開発・実践、その体制整備を支援する。県内外におけるグローバル人材育成を担う連携校や海外の連携校や国際機関等とも目的と情報を共有し、ネットワークを形成していく。

- ・R5年度、ふたば未来学園中学校・高等学校を事業拠点校に指定し、県内事業連携校5校と県外事業連携校2校や事業協働機関と福島アドバンスト・ラーニング・ネットワークを形成
- ・R5年度、事業拠点校における探究を軸とし、海外研修を体系的に位置づけたカリキュラム開発し、R6年度は、探究活動の課題等を踏まえ、通年で見直しを行っている。
- ・事業拠点校と事業連携校の取組の共有として、年間3回、連絡協議会を開催
- ・NPO法人カタリバと連携し、カリキュラム開発の教員研修会を2月10日開催（自治会館）
※ 連絡協議会及び教員研修会については、拠点校及び連携校の計8校が参加予定
- ・東北大学との連携（「学問論演習」の受講、成果発表会への参加、探究活動への専門的助言等）成果発表会に参加（2月20日（木）東北大学）
- ・高校生国際会議（令和7年8月7日（木）8日（金）に開催予定）に向けた準備として、令和7年1～3月にかけてオンラインでふくしまAL（アドバンスト・ラーニング）探究ゼミを開催（R6.12.7（土）キックオフミーティング開催）

◆ そなえるふくしま防災事業（危機管理課）【 90,071 千円】

東日本大震災の教訓と経験を踏まえ作成した「そなえるふくしまノート」等を活用し、広く県民に対し、災害や災害の対応について、防災出前講座などの「学び」「体験」し、「考える」機会を通じ、防災意識の深化と定着を図り、県民の防災意識の高揚（「自助」）を促すとともに地域で助け合う（「共助」）精神の醸成を図る。

○防災啓発推進事業

- ・ 防災出前講座 64 団体（113 回）、3,421 名に実施（令和 7 年 3 月 31 日時点）
- ・ 防災士を活用した防災講座 69 回、1,042 名に実施（令和 7 年 3 月 31 日時点）
- ・ 市町村イベント・防災訓練等への出展 20 回（令和 7 年 3 月 31 日時点）
- ・ 危機管理センター見学 71 団体、1,352 名に実施（令和 7 年 3 月 31 日時点）
- ・ 防災ガイドブック「マイ避難ノート」の改訂
線状降水帯や内水氾濫等の新たな要素、防災アプリを活用した避難行動等を加えた改訂

○防災DX推進事業

- ・ 県民の適切な避難行動を支援する防災アプリの機能拡充や普及のための広報を実施。
ダウンロード数：97,086 ダウンロード（令和 7 年 3 月 31 日時点）

（２）伝承館による記憶と教訓の伝承

◆ 東日本大震災・原子力災害伝承館管理運営事業（生涯学習課）【 432,772 千円】

東日本大震災・原子力災害伝承館の効率的な運営を図る。

- ・ 複合災害に関する資料の収集、保存、展示及び利用に関すること
- ・ 複合災害に関する専門的な調査研究に関すること
- ・ 複合災害に関する講演会、講習会、研究会等の開催に関すること
- ・ 複合災害の経験及び教訓を学習する機会の提供に関すること

○資料収集・展示

- ・ 10,599 点の資料を収集
- ・ 企画展示は 2 回実施、他県での巡回展示は 4 回実施

○調査研究

- ・ 令和 6 年 1 2 月に活動報告会開催（館長、上級研究員 3 名、常任研究員 4 名）
- ・ 令和 7 年 3 月に東日本大震災及び原子力災害の研究者を集めて学術研究集会を開催

○学習機会の提供

- ・ 346 団体 14,512 名が一般研修プログラムを受講し、6 団体 126 名が館長及び上級研究員による専門講座を受講

◆ 東日本大震災・原子力災害伝承館学習活動支援事業（生涯学習課）【 24,965 千円】

県内外の小中高の児童・生徒が東日本大震災・原子力災害伝承館を活用して行う学習活動に対し支援する。

- ・ バス補助 延べ 92 校、バス 192 台、人数 6,577 人（児童生徒及び引率者）
- ・ 入館料補助 16,764 人程度
- ・ 申請サポート（窓口）業務委託
- ・ 事前学習 P G 作成業務委託

(1) 東日本大震災等の経験や教訓の伝承と防災教育の推進

- ◆災害からいのちを守る事業(危機管理課)【56,266千円】
- ◆(一部新)そなえるふくしま防災事業(危機管理課)【65,973千円】
- ◆未来へはばたけ!イノベーション人材育成事業(義務教育課)【11,175千円】
- ◆震災と復興を未来へつむぐ高校生語り部事業(高校教育課)【17,187千円】
- ◆福島イノベーション人材育成支援事業(高校教育課)【30,714千円】
- ◆福島イノベーション人材育成事業(高校教育課)【43,432千円】
- ◆WWLコンソーシアム構築支援事業(高校教育課)【11,528千円】
- ◆東日本大震災福島県復興ライブラリー整備事業(社会教育課)【2,914千円】
- ◆ロボット・航空宇宙フェスタふくしま開催事業(次世代産業課)【45,524千円】
- ◆水害・土砂災害に関する防災教育を支援する出前講座(河川計画課)【0円】
- ◆(一部新)次世代へつなぐ震災伝承事業(生涯学習課)【24,992千円】
- ◆震災・原発の経験・教訓、復興状況伝承事業
(ジャーナリストスクール開催事業)(生涯学習課)【7,715千円】

(2) 伝承館による記憶と教訓の伝承

- ◆東日本大震災・原子力災害伝承館管理運営事業(生涯学習課)【426,300千円】
- ◆東日本大震災・原子力災害伝承館学習活動支援事業(生涯学習課)【32,176千円】

施策4 社会の変化等に対応した学びやすい環境づくりの推進

令和6年度の主な取組（実績）

（1）ICTの活用と学習情報の提供

◆ デジタルデバйд解消事業（デジタル変革課）【3,273千円】〔再掲〕

高齢者の情報活用能力の習得・向上を支援し、ICTを活用した地域活性化の促進を図るため、市町村や会津大学、関係機関と協力して地域の高齢者のデジタルデバйд解消に向けた情報リテラシー向上教室を行う。

- ・スマホ教室を17町村計34回開催
- ・デジタルサポーターを4市町計26名認定

◆ 建設DX推進事業（技術管理課）【49,800千円】

県内の建設業就業者は、55歳以上の割合が全国平均・全産業平均より高く、次世代への技術継承が大きな課題となっていること、また、令和6年4月より建設業における時間外労働の上限規制が適用されることから、建設産業における働き方改革、生産性向上を進めるため、技術者・施工業者の人材育成、ICT活用のための環境整備及び建設生産・管理システムのDX化に取り組む。

R6年度

- ・デジタル技術活用人材育成講習会を13回開催
- ・業界団体主催デジタル技術活用人材育成研修等への補助を3団体へ実施
- ・専門家によるICT活用技術支援を15企業へ実施
- ・建設DX加速化補助金事業を37企業へ実施
- ・電子納品保管管理システムの改修事業を実施

◆ ニュースレター発行（生涯学習課）【0千円】

生涯学習に関する情報をまとめた「ニュースレター」を年2回作成し、本課ホームページに掲載するとともに各市町教育委員会や他関係機関等に情報を発信する。

R6年度

- 第16号 令和6年11月発行
 - ・石川町文教福祉複合施設「モトガッコ」（石川町）
 - ・たむら市民大学「たまり」（田村市）
- 第17号 令和7年3月発行
 - ・喜多方市地域おこし協力隊（喜多方市）
 - ・本宮市国際交流課（本宮市）
- 配信先 442件
- ふくしまマナビ i (アイ) 事例紹介ページ及び県生涯学習課HPより配信

◆ 生涯学習推進市町村支援事業（生涯学習課）【1,102千円】

福島県生涯学習情報システム（ふくしまマナビ i）の保守及び機能充実を図り、講座を主催する市町村等が学習者のニーズに応じた魅力ある講座を県民に提供することにより、県民の学習参加と成果活用の促進し、自己実現と地域発展を支える本県生涯学習社会の実現を図る。

○福島県生涯学習情報システム（ふくしまマナビ i）に、新たに、①講座年度管理機能、②講座別受講者アンケート集計機能、③ユーザー管理機能を搭載し、県内の生涯学習関連情報の提供を行った。

○運用状況

・アカウント付与数

市町村 305、県 101、民間教育施設・高等教育機関・民間企業 58

・登録団体数

市町村 59、県 16、民間教育施設・高等教育機関・民間企業 47

・講座・イベント登録数（非公開8,042 公開1,331）

・動画登録数 282（庁内・民間教育施設等）

・施設登録数 474（非公開 8 公開466）

・講師情報 488（非公開 17 公開 471）

（２）学習成果の発表と活用の場の提供

◆ 県展開催事業（文化振興課）【15,770 千円】

県内在住者及び県出身者から美術作品を公募し、一般に展覧することにより本県美術の振興を図る。

○第78回福島県総合美術展覧会

・会期 令和6年6月14日（金）～23日（日）

・会場 とうほう・みんなの文化センター（県文化センター）

・部門 5部門（日本画、洋画、彫刻、工芸美術、書）

・出品数 742点（うち公募598点） ※陳列作品数は615点

・特別企画 出品者研修会、ギャラリー・コンサート

◆ 福島県芸術祭（文化振興課）【1,000 千円】（負担金）

県民による文化の公演発表等の促進、県民への芸術鑑賞機会の提供及び芸術文化団体等の活動促進を図るため、福島県芸術祭を開催する。

<第63回福島県芸術祭>

○開幕式典・開幕行事（重点地区：相双地区）

・日程 令和6年9月1日（日）

・会場 富岡町文化交流センター学びのもり

・テーマ 生き継ぐ伝統 未来を照らす文化の芽吹き

○芸術祭行事数 113（主催行事29、参加行事84）

◆ ジョブ・カードの普及啓発（産業人材育成課）【0 千円】〔再掲〕

委託訓練受講者等へのジョブ・カードの作成支援及び普及啓発を行う。

○ジョブカード作成支援件数（R7.3 月末現在）

・委託訓練 925 件 ・学卒訓練 57 件

○令和5年度実績（R6.3 月末現在）

・委託訓練 620 件 ・学卒訓練 95 件

◆ 声楽アンサンブルコンテスト全国大会（文化振興課）【19,198 千円】

「合唱王国ふくしま」として知られる本県の合唱活動の更なる発展を図るため、継続的に全国規模のコンクールを開催することにより、「合唱王国ふくしま」を全国に発信し、「合唱＝ふくしま」というイメージを定着させる。

○第18回大会の開催

- ・開催日程 令和7年3月20日(木)～23日(日)
- ・開催場所 ふくしん夢の音楽堂(福島市音楽堂)
- ・部門 4部門(中学校、高等学校、小学校・ジュニア、一般)
- ・出場団体 133団体 入場者数 4,953名

◆ 文学賞実施事業(文化振興課)【3,631千円】

県民から文学作品を公募し、成果発表の機会を提供するとともに優秀作品を顕彰することにより、本県文学の振興と地域文化の進展を図る。

○第77回県文学賞

- ・作品募集
 - ①部門 5部門(小説・ドラマ、エッセー・ノンフィクション、詩、短歌、俳句)
 - ②応募状況 250点(うち青少年56点)
- ・表彰
 - ①賞の種類 部門毎に文学賞、準賞、奨励賞、青少年奨励賞を決定
 - ②表彰式 令和6年11月3日(文化の日)、杉妻会館
- ・作品集の発行及び販売
受賞作品を収録した県文学集を令和7年3月に発行

(3) 関係機関等の連携・強化

◆ 市町村社会教育指導員研修会(社会教育課)【0千円】

社会教育指導員として社会教育関係事業の企画・立案・実施など、地域の実態に応じた活動上の諸問題についての研究協議等を行い、指導員としての資質向上を図る。

- 第1回研修会 5月16日(木) 郡山市立中央公民館 88名参加
- 第2回研修会 9月27日(金) サンライフ南相馬 87名参加

◆ 市町村社会教育担当者研修会(社会教育課)【119千円】

公民館職員等3年以上の経験のある社会教育行政担当者、社会教育主事任用資格取得者、社会教育士のリカレント教育として、「人づくり、つながりづくり、まちづくり」に向けた専門的・実践的な研修を行う。

- 日時・場所 8月1日(木) オンライン
8月2日(金) 男女共生センター
- 参加者 54名

◆ 公民館職員研修会(社会教育課)【58千円】

公民館初任者を対象に、基礎的・基本的な知識の習得や技術的・実践的な研修を行う。

- 日時・場所 5月29日(水) オンライン
6月 5日(水) 男女共生センター
- 参加者 170名

◆ 美術館企画展開催経費(社会教育課)【92,347千円】

企画展を開催し、県民の観覧に供する。

R6 年度実績

・美人画の雪月花 培広庵コレクション (3/23～5/12)	総入館者数	5,524 人
・福島的美術家たち 2024 (5/25～7/22)	総入館者数	4,962 人
・みんなの福島県立美術館その歩みとこれから (8/3～9/16)	総入館者数	3,913 人
・ポップ・アート 時代を変えた 4 人 (10/26～12/15)	総入館者数	11,753 人
・絵本作家 かがくいひろし (1/25～3/9)	総入館者数	41,149 人
・THE 新版画 (3/22～5/25)	総入館者数	6,885 人

令和 7 年度の取組

(1) ICT の活用と学習情報の提供

- ◆(一部新)建設 DX 推進事業(技術管理課)【69,000 千円】
- ◆ニューズレター発行(生涯学習課)【0 円】
- ◆学びあう生涯学習社会形成事業(生涯学習課)【1,328 千円】
- ◆デジタルデバйд解消事業(デジタル変革課)【5,532 千円】〔再掲〕
- ◆ふくしまデジタルアート推進事業(文化振興課)【9,813 千円】〔再掲〕

(2) 学習成果の発表と活用の場の提供

- ◆県展開催事業(文化振興課)【28,858 千円】
- ◆福島県芸術祭開催(文化振興課)【1,000 千円】(負担金)
- ◆文学賞実施事業(文化振興課)【4,111 千円】
- ◆声楽アンサンブルコンテスト全国大会(文化振興課)【19,198 千円】
- ◆ジョブ・カードの普及啓発(産業人材育成課)【0 円】〔再掲〕

(3) 関係機関等の連携・強化

- ◆美術館運営事務経費(社会教育課)【243,815 千円】
- ◆公民館職員研修会(社会教育課)【90 千円】
- ◆市町村社会教育指導員研修会(社会教育課)【4 千円】
- ◆市町村社会教育担当者研修会(社会教育課)【109 千円】
- ◆(一部新)博物館企画展経費(社会教育課)【23,027 千円】
- ◆(一部新)美術館企画展経費(社会教育課)【48,793 千円】
- ◆ふくしま海洋科学館利用補助免除事業(生涯学習課)【41,112 千円】
- ◆国際芸術鑑賞事業(文化振興課)【2,157 千円】
- ◆水害・土砂災害に関する防災教育を支援する出前講座(河川計画課)【0 円】〔再掲〕
- ◆多文化共生推進事業(多文化共生きずな促進事業)(国際課)【10,292 千円】〔再掲〕